

「もっとおいしく」の、 その先へ。



全国から注文が来るほど人気だった南高梅の栽培を、なぜ辞めたのでしょうか？

50歳の頃、「退職したら、何かやりたいな」と思って、南高梅を始めました。80本ほど育てて、利根町のふるさと納税返礼品にも採用していただきました。北海道から、梅の本場の和歌山、九州まで、本当に多くの方に買っていただきましたし、「永沢さんの梅がいい」と言いつつ、毎年買ってくださいる方もいました。

でも、梅は全部手もぎです。朝5時前に起きて、脚立に上がって収穫するので、70歳近くになると体力的に厳しくなってきました。病気や雹の被害もありましたし、「今が区切りかな」と思って、6年ほど前に80本すべてを切りました。切る時は寂しいというより、「これでやらなくていいんだ」というような、意外とさっぱりした気持ちでしたね。

シャインマスカットとピオーネには、
どんな想いで向き合っていますか？

梅を辞める少し前から苗木を植えていました。当時はシャインマスカットが高級品だったので、「そんなにいいものなら育ててみようかな」と思ったんです。でも、ブドウ作りは本当に手間が掛かります。冬は剪定、春は芽かき、種をなくすためのジベレリン処理を二回やって、その後は一粒ずつハサミで摘粒します。一房を35〜40粒くらいに整えていくので、とても時間が掛かります。

でも、この作業をやるから粒が大きく

なって、甘くおいしいブドウになるんです。房づくりは、自分の腕がそのまま表れるので面白いですね。今年は、形だけなら今までで一番いい出来です。

多くのお客さんが毎年楽しみにされているそうですね。

去年は二週間ほどで完売しました。梅を買ってくださいたお客様が、「今度はブドウもやるの？」と、そのまま買いに来てくださることも多いです。

糖度は18度以上を目標に努力しています。採れたてなので、鮮度には自信がありますし、お客さんがお客さんを紹介してくださいることも多く、本当にありがたいですね。そういうお客さんの反応が「もっとおいしいものを作ろう」という気持ちにさせてくれます。

利根町での農業について、今感じることがありますか？

昔に比べると、若い人が農業を始めるのは本当に大変な時代になったと思います。機械も高くなりましたし、最近は今までにないような異常気象も多いです。私の息子は教師になりました。多少は継いでくれたらという気持ちもありましたが、それぞれ生活がありますからね。無理は言えませんでした。

これからは農業も集約されていく時代なんじゃないかと思っています。でも、農業は手を掛けた分だけ応えてくれます。その面白さは、今でも変わりません。